

ハ乙女

祝 南砺市二十歳の集い

おめでとうございます



新春を迎えて

南砺市議会議員 才川昌一

地域の皆様の新春をお祝い申し上げます。

今年はどうなるのか、大きく期待をしておりますが、元日から大きな揺れに見舞われ、波乱の年明けとなりました。能登半島地震において未だに行方不明の方や亡くなられた方、そして被害に遭われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

市においては人身被害もなく、地震発生からすぐに避難場所の設置がなされ、消防団の方による安否確認や被害状況の確認など災害に対する素早い対応が行われました。災害に対して組織的に対応がされましたが、地域防災の活動などにも期待し、更に災害に強い地域を皆でつくり上げていきたいと思っております。

さて、市においては歯止めが効かない人口減少や公共施設の再編・公共交通の充実など、まだまだ課題は山積しております。

しかし、昨年は、利賀ダムの本体工事が着工の運びとなり、また、城端スマートインターチェンジが開通し、桜ヶ池周辺にレジャーランドの誘致が決まるなど、大型の建設工事計画が着々と進められております。また、井波地域においても市民病院の南棟の改築工事が計画されるほか、2040年頃を見越した井波のビジョン計画も作り上げられました。その他にも、コロナ禍後を見越した観光戦略やDXの推進など、将来を見越した計画がいくつも出来上がっております。

是非とも、今年はそのらの計画を実現させていく年にしていきたいと思っております。市民の皆様が南砺市に住み続けたいと思える地域づくりの実現に向けて、今年も努力していきたいと思っておりますので、これまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、地域の発展と地域住民の皆様にとって幸多からんことをご祈念申し上げます。



辰年の 新年を迎えて

「最高学年として」



久 恵 縁
(平成24年生)

ぼくは、今年の春で最高学年になります。低学年のお手本になることがぼくの目標です。一緒に遊んだりあげたり、面倒を見てあげたりしたいです。ぼくも低学年のころ、お兄ちゃんの友達に遊んでもらったり、勉強を教えてもらったりして、嬉しかったことを覚えています。

ぼくもそんな六年生になるために、まずは自分ができることを増やしていきたいです。自分の身の回りの事は自分でやるようにして、家でも学校でも自分から進んで協力できるようにになりたいです。勉強も、ぼくは算数が苦手だけど、下級生に教えてあげられるように、もつとがんばる年していきたいです。

「頑張りたい事」



谷 田 眞奈香
(平成24年生)

私が今年頑張りたい事は二つあります。

一つ目は、「勉強」です。春から中学生になり、もつともつと勉強がむずかしくなると思います。苦手教科が少しでもなくなるように、しっかりと自主学習などしていきたいです。

二つ目は、「バスケットボール」です。三年生から続けているので、中学校の部活動でも続けていきたいです。練習して、もつと上手になれるように頑張りたいです。

小学校生活も残りわずかなので、元気に友達と仲良く、いろんな事に頑張っていきたいです。そして、中学生になっても頑張りたいです。

辰年の新年を迎えて



吉 田 海 音
(平成12年生)

今年、人生二度目の「年男」となりました。大学を卒業し、現在、東京の建設会社で主に商業施設の施工管理を担当しています。

分らないことばかりで右往左往の毎日ですが、先輩や職人さん達に助けられながら、人を感動させられる空間作りを目指して奮闘しています。そんな中でも、完成後にクライアントから喜びの声が聞けた時、何よりもやりがいを感じます。

仕事以外では、小学校から励んできたサッカーの延長で、今は休日にフットサル仲間と一緒に楽しんでいます。

二度目の「年男」となった今年を契機として、健康に留意し、仕事や趣味に全力で取り組みたいと決意を新たにしています。

新年を迎えて



篠 原 千 尋
(昭和63年生)

三回目の年女を迎えました。自分が想像していた三十代は、仕事も育児もしつかりとこなす姿でしたが、実際は子育てでてんやわんやの毎日です。

そのような中で感じたのは、周りに頼ることの大切さです。三十代になり様々な責任も増えてきて、ついつい抱え込みがちになってしまいました。そんな時、周りの温かさに何度も助けられました。よい意味で無理をしない、というのが今の目標です。

新年を迎えて



山 田 忠 志
(昭和51年生)

今年、元日から能登の地震があり、改めて家族が元気でいること、ありがたさを感じました。慌ただしく日々が過ぎていきますが、ささやかな幸せを感じながら過ごしていきたいと思っています。

新年早々、能登半島地震が発生し、非日常的な光景がニュースで流れ、自然の猛威に愕然としたスタートでした。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

新年を迎え、昨年度を振り返ると、コロナが五類に移行され「何年ぶり」の開催といった地域行事が再開したこともあり、生活がコロナ禍前に戻ってきたことを実感しました。また個人的には、夏ごろから仕事の都合で新天地での転勤生活が始まり、環境が大きく変わった年でした。新しい環境での挑戦や初めての土地での経験が、自分を成長させるきっかけとなればと思っています。



辰年をむかえて



須川 武志
(昭和39年生)

今年は、早いもので還暦を迎えます。今まで地域の為に何が出来たか振り返ってみると、二十七年続いている消防団です。

年代の違う団員と活動をやり遂げるのは充実感がありました。令和六年元日の能登半島地震の時も消防団の必要性を感じました。幸い南山見地区では大きな被害もなく安堵しました。

今、普通に安心して生活をかみしめて、これからも年を重ねていきたいと思えます。今年も地域の皆様と共に助け合い健康で過ごせればいいかなと思います。



林 一代
(昭和39年生)

五度目の辰年となり、大きな節目の還暦を迎えました。コロナ五類となり行動制限も無く、やっと以前のような暮らしに戻る新しい年がやって来たと、喜んでいた矢先に「令和六年能登半島地震」いつ起こりうるかわから

ない「自然災害」。急にハザードマップを見た私がそこにいました。

災害時に対しての日頃からの備えの必要性、そして、ここ南山見地区の地域の方々との繋がり・協力がより一層、必要であることを再認識した次第です。

一年を振り返った時に、順風満帆な一年だったと思えるように、日々過ごして行きたいです。

健康で



須川 外喜雄
(昭和27年生)

一月一日夕方けたたましい音で緊急地震速報が鳴り、突然我が家が大きく揺れた。びっくりして、とりあえず外へ飛び出した。

幸い被害も無くほっとしている。能登の避難者の惨状をテレビで見ると大変である。一日も早い復興を願いつつ、どんな状況でも耐えられるよう、体力保持が大切であると再認識した。

私は、十年ほど前、腰や足が痛みと痺れで、五十mも歩けなくなり、静止状態では五分も立っていられなくなつて、腰の手術を受けた。おかげで支障なく過ごしている。その時、健康が大事なのを痛感した。

健康な体で自治会など地域に貢献をしていきたいと思っている。

家族とともに



高橋 眞智子
(昭和27年生)

私が五十二才の時に、夫と死別してはや十九年。まだついこの前の様な気がします。

娘達は、それぞれ家族を持ち孫も生まれ、元気をもらっています。また、地域の皆様と共に日々を過ごしています。趣味の大正琴も頑張れます。

早いもので、もう七回目の年女を迎え七十二歳になりました。自分でも驚いています。子供の頃は七十二歳なんてすぐく年寄りだと思っていました。その年になつてしまいました。孫達から、「おばあちゃんも子供の頃があったの？」と聞かれます。

もつともつと長生きをしてひ孫の顔を見たいと思います。今は亡き両親に生んでくれてありがとうと手を合わせています。

農業環境の進歩



武田 昭夫
(昭和15年生)

昭和、平成、令和と三時代生かされ長生きしました。

昭和四十二年に結婚して、大建工業で働きながら兼業農家をしていました。その頃の農地は、昔の耕地整理の一反田で、道路は荷車が通れる位でした。

昭和四十年初期から県営の土地改良が始まり、三反田に区画整理され、車も通れるようになりました。更には、パイプラインも整備され、営農組合も設立し、現在では、幹線道路から舗装された道路で農地へ行けるようになりました。

子供も三人授かり、六十代前半には内孫二人、外孫五人となりました。長男家族も子供の進学のこともあり、新潟から富山に引っ越してきてくれ、町内の役職、地区の農業組織を受け継いでくれて安心して、います。

昨年五月からコロナ感染症は五類に移行され、娘夫婦、娘の孫達に沖縄旅行に連れて行ってもらい、楽しい旅行が出来ました。

今年こそはと、コロナ前の生活に戻れることを期待していた矢先、能登半島地震に見舞われ、経験のない震度に恐ろしさを実感しました。被災された方々には、心が痛み言葉もありません。自然災害がいつ起こるか判らない昨今、平穏で戦争のない、世界平和を祈ります。



『郷土誌 南山見』の発刊にあたって

ふるさとの歴史文化調査委員会 委員長 富田利通

南山見地域づくり協議会設立に際し始まった「南山見地域誌」の編纂事業。お陰様で、昨年十二月初めにすべての原稿の最終校正を終え、この三月に予定どおり発刊・配付する運びとなりました。その書名及び様式は次のとおりです。

○書名 『次代につなぐ郷土誌 南山見』
○様式 A四判・函入り、総二三三ページ・フルカラー

掲載した写真や図表

約四二〇点

○章立て

- 一章 南山見の地勢と成り立ち
- 二章 自治振興のあゆみ
- 三章 産業の変遷と生活環境の変化
- 四章 教育と人材育成
- 五章 寺院・神社・史跡等と歳時記
- 六章 集落紹介
- 巻末資料(名簿・年表)
- ※十三の「コラム」



編纂を終え改めて感じたことは、当地区の「自然の豊かさ」と厳しさ」「歴史・文化の厚さ」、そして、それぞれの時代で課題の克服に取り組んできた「先人たちの先見性・進取の心・粘り強さ・協力的性」です。風土を生き抜く実践が脈々と受け継がれていることに、南山見の強さがあるように思いました。

これまで四年三か月、ふるさとの歴史文化調査委員会では「全体委員会」を十二回、「編集委員会」を十六回開催し、調査委員の皆さんには、元となる写真や史資料の調査収集や原稿素案の作成を、また、編集委員の皆さんには、原稿間の調整補筆、写真・図版などの補充、そして校正等を行っていただきました。公私ともお忙しい中、本当に根気強く熱心に取り組んでいただき、心より御礼申し上げます。また、本事業を温かく見守ってくださった地区の皆さん、写真や史資料の提供・確認などにご協力いただいた関係各位・関係機関の方々にも深く感謝申し上げます。

南山見地区の皆さんにとって、この郷土誌が、次代につなぐ、新たな地域づくりの『温故知新』となれば幸いです。

敬老の集いと米寿祝の

南山見社会福祉協議会事務局 蓮田松夫

十一月十二日に第三十二回敬老の集いを南山見交流センター体育館において開催しました。今年も八乙女文化祭と合わせて行うことになりました。

コロナも落ち着き、今回は久しぶりに舞台発表、食販売などがあり盛大に行われました。敬老の集いは南山見地区の七十五歳以上の招待者二百五名の内、五十六名の方々が出席され、「米寿祝い」の方八名に、確井地域づくり協議会長より、南砺市からのお祝い状と記念品を贈呈していただきました。

ある統計によると、南砺市の平均寿命は富山県内の市町村では男女とも最高とのこと。自然に囲まれた素晴らしい環境の南山見で、充実した老後を過ごしていただきたいと思えます。敬老の集い終了の後はステージ発表が行われ、飲食コーナーも賑わって久しぶりの雰囲気を感じました。

社会福祉協議会のブースでは赤飯、生菓子、おはぎ、さつま芋、玉ねぎ、落花生などの販売を行い、皆さんに喜んでお買い上げ頂きました。

最後に、準備や片付けにご尽力いただいた、地域づくり協議会の理事や役員の方々や、健康・福祉部会の皆様方にお礼を申し上げます。



令和5年 米寿祝

米寿のみなさん おめでとうございます

- 松田恵美子 様 (院瀬見1区)
- 田中千歳 様 (院瀬見3区)
- 田中正夫 様 (院瀬見3区)
- 堀越小夜 様 (志 観 寺)
- 川原彦市 様 (戸 板)
- 朝倉あき子 様 (里 領)
- 川縁文治 様 (沖)
- 才川美代子 様 (沖)



第46回八乙女文化祭 完全開催で大成功!!

実行委員長 田中一昭



11月12日(日)、伝統の八乙女文化祭を開催しました。4年ぶりにステージ発表や各種団体の模擬店も行い、制限なしで実施しました。「敬老の集い」と同時に開催したこともあり、早朝から大勢の住民の皆様にご来場頂きました。

開会式では、碓井会長や才川市議から、「4年ぶりの完全開催で、地域の交流を大いに深めてください」というお祝いの言葉を頂きました。「米寿のお祝い」のセレモニーに続いて、オープニングステージとして、須川俊行さんが座長を務める「太陽(ひざし)一座」のフラダンスで、お祝いムードを盛り上げて頂きました。

11時からはステージ発表や各種団体の模擬店がオープンしました。ステージ発表のトップバッターは、子ども民謡教室の児童による「野崎小唄」の可愛らしい踊りで、会場から大きな拍手が送られました。その後、詩吟や歌唱、民謡、舞踊等が次々と披露され、日頃の練習の成果を十分に発揮していただき、大いに盛り上がりました。児童クラブや青少年市民会議の皆さんのお世話で、スムーズな進行をしていただきました。

各種団体の模擬店では、うどんや焼きそば・もつ煮等のつまみ類、おはぎや赤飯、シュークリーム、アルコールにコーヒー、お茶席と、多種多様な品物が準備され飛ぶように売られていました。コロナ禍で3年間は中止しましたが、やはりステージ発表や模擬店は、文化祭になくてはならないものであることを実感しました。

大ホールや会議室では、各種団体の活動報告や絵画、書道、写真、手芸、園芸等の多彩な作品を展示しました。また、農産物展示と販売が行われ、品評会では金賞5品が選ばれました。作品や農産物は、制作者や生産者の工夫や努力の跡が伺えるものばかりで感心致しました。全部で作品は60点、農産物は28点の出品があり、昨年を上回る数でした。出品していただいた皆様、有難うございました。エントランスでは、恒例の「野菜の重さ当てクイズ」を行いました。たくさんの応募があり、入賞者10名には豪華賞品を贈りました。

完全実施したことで、1日で約200名の来場者があり、地区住民の交流の輪を広げ、絆を深めることができました。これも偏に、準備から運営、片付けまでご協力いただいた実行委員や各種団体、町内会等、多くの方々のお陰です。改めて南山見地区のパワーのすごさを痛感しました。成功裡に終了できたことに感謝致します。本当に有難うございました。



農産物品評会 金賞受賞者の皆さん

- | | |
|---------|---------|
| 里芋 | 川原 彦平 様 |
| 白菜 | 直江 稔 様 |
| 小豆 | 林 律子 様 |
| 白カリフラワー | 銅 光枝 様 |
| キャベツ | 前田 吉信 様 |



山を見たら、そこには井波彫刻が施された曳山を見つけ、我が町の彫刻の伝統の素晴らしさを発見することができ、少し誇らしく思いました。次に、高山市内の朝市見学と古い町並み散策を楽しみました。朝市はどこかの駐車場を使用し、露店が二十ほどあり、郷土の特産品とか民芸品等の数々がありました。流石高山の町並みは、古き良き昔ながらの木造建築を生かし、そして、それを残しながら風情ある町並みでした。最後に訪れた飛騨千光寺は、円空の手による仏像が六十三体あり、円空寺の寺としても広く知られていて由緒ある寺院でした。高山の歴史や文化の奥深さを改めて感じた日帰り研修会でした。



まずは、高山まつりの森のミュージアム内にある曳山の第三回高齢者学級は、十月二十八日(土)に、飛騨高山の歴史探訪を日帰り研修会として実施しました。二十三名の参加者は胸を躍らせて、いざ飛騨高山へ。

高齢者学級長 澤田 範久

老人クラブ連合会 日帰り研修会

ふるさと探訪ウォーキング

第三弾 「不動滝」編

案内人 松田博志



秋深まる十月二十九日、午前九時、東城寺八幡社を目指し参加者十六名が交流センターを出発した。健康増進とふるさととの名所を探訪する目的で、今回は第三弾となる。

八幡社では、現在の社殿造営の由来、境内の石垣と旧殿の東石に通称、「材木石（滝谷石）」が使われている事などを知ることが出来た。

八幡社の裏山を登って行くと、丘陵中腹にある「東城寺の風宮」があり、言い伝えには「村人伝へいく仮にもこの穴を汚さば直ちに風害あると恐れ、風宮不吹堂より以上は信仰の念高く」とある神秘さを感じる小さな祠であった。

さらに尾根道を登っていくと、南山見十一ヶ村と山見、池田を含めた十三ヶ村が勧請している「焼尾の不吹堂」がある。そのお堂の扉には、何故か「菊一文字」の紋章が彫られているが、何の意味を込めているのか、謎めいている。

不吹堂から、紅葉舞い散る作業道を歩けば、心地よく「不動滝の霊水」にたどり着いた。早速、古来より雨乞いの神事が行われていた「不動滝」を観て戻ってくると、いきなり雨が降り出し「あずまや」での昼食となった。

昼食を済ませると、不動尊のイタズラだったのか？不思議と雨も上がり「赤祖父林道」を下って「矢於留神社」に辿り着く。この社は清玄寺、連代寺にそれぞれ「少彦名社」が祀られていたが現在地に合祀され、地名を因して社名を「矢於留神社」にしたと伝えられている。

その後、「村長日記の碑」や道ばたの石仏などを拝みながら、井波八幡宮の元社とされる「大森神社」に参拝し「浄教寺」や「忠魂碑」の歴史を探った。

最後に、「マーシ園八乙女」の建設地で理事長より説明を受けていたら、急に大粒の雨が降り、「交流センター」まで駆け込んだ。七、五kmのコースを全員ゴールした。

尚、熊対策として、コースの要所要所で「ロケット花火」を打ち上げサポートして頂いたスポーツ推進員の青山、前田氏に感謝したい。



南山見地区防災訓練

安全・防災部会長 富田豊志

去る十月二十二日、南山見地区避難訓練を三年振りに開催しました。コロナ禍で中止となっていました。各地区の公民館への避難訓練参加者は総勢七五〇名、その中から八十名余の住民の皆さまに交流センターの避難訓練に参加いただき、避難手順の再確認ができたのではないかと感じております。ただ、避難所を開設する側は手順の再確認、マニュアルを必要とするのかなとも感じました。防災会のメンバー一人一人がいかなる時にでも速やかに避難所を開設することが出来るよう、マニュアルを作成し、熟知していただく必要を感じるところであります。また、翌週二十九日には南砺市防災訓練が福野で開催されました。市内各地域づくり協議会の防災担当者は机上避難所開設訓練（HUGゲーム）を主として行い、一般参加の皆さんは、初期消火訓練や、炊出し、消防梯子車の試乗体験等例年通りのブースが展開されました。防災意識の高揚に寄与されればよいと感じました。

さつまいも掘りに参加しませんか！

南山見地区社会福祉協議会 直江喜美代

十月九日(月)は、スポーツの日で学校は休みでした。天気予報は雨の予報だったので、前日に事務局で少しイモを掘っておきました。南山見地区にじいる保育園父母の会と、南山見地区児童クラブの保護者の皆様へ地域づくり協議会を通して呼びかけをして頂きました。

当日は、予報どおり雨になり悪天候の為イモ掘りは中止としました。参加者数が不安でしたが、子供さんが二十七名、保護者の方は十八名で、昨年よりも大勢の参加者があり、うれしく思いました。サロン関係者は三十三名合わせ総勢七十八名で会館内は満員御礼でした。

田中一昭さんに講師をご依頼して、子供さん達のゲームの指導をして頂きました。輪投げ・スイングトスボール・ペットボトルボーリング・スリッパ飛ばし・菓子つり・一円玉で運だめしの六種類のゲームです。それぞれに点数をつけて、一つ一つのゲームのチャンピオン、総合点数のチャンピオンの表彰して頂いたので、児童の皆さんは楽しんでいただけただけでしよう。

帰りには玄関のパケツの中で泳いでいためだかを、育てたい方にプレゼントしました。おみやげはもちろんさつまいも。八乙女サロンの菜園で収穫した物です。来年もさつまいも掘りを計画しております。子供さん、保護者の皆様のご参加をお待ちしております。次回が雨天の時、紙芝居もどうかかな？と、ご意見もあり検討いたします。



栄えある受賞
おめでとうございます！

◇文部科学大臣表彰
小学校教育功労者感謝状

田中 一昭氏

長年にわたり、小学校教育の振興に尽力された功績により、小学校制度七十五年を記念して、受賞されました。



◇南砺市社会福祉協議会表彰
ボランティア活動者部門

直江喜美代氏

双葉グループで、マージョンの清掃活動やイベントの協力等を行うとともに、市ボランティア協議会会長としての活動が評価され受賞されました。



チューリップが咲き誇ることを願って

花と緑の銀行 頭取 田中 一昭

交流センター前庭のサルビアやマリーゴールドは、夏の猛暑で枯れかかっていましたが、涼くなった秋には復活して、11月になってもベゴニアや日日草とともにきれいな花を咲かせていました。しかし、チューリップの球根を植える時期になったので、残念ながら、11月2日(木)に花と緑の銀行の頭取とグリーンキーパーで、花の抜き取りと床土の整備作業を行い、球根植えの準備をしました。

そして、11月5日(日)に児童クラブの子供たちと一緒に球根植えをしました。天候にも恵まれ、7種類の球根をプランターに10個ずつきれいに並べて植えました。「とがっているところを上にする」と「球根2個分程深く植えて球根が見えないように土をかけること」に気を付けるよう話しました。用事があって参加した子供たちは少なかったのですが、一人一人が親御さんと一緒に一生懸命作業をし、15分程で終了しました。

今年も、春には色とりどりのチューリップが咲き誇ることでしょう。とても楽しみです。



花壇づくり・文化祭展示作品作り



児童クラブ会長
池田 真人



児童クラブでは昨年の11月5日(日)に、花壇づくり並びに文化祭展示作品づくりを南山見交流センターにて行いました。

児童数の減少により6月の花壇づくり同様、全学年で協力をして花と緑の銀行グリーンキーパーの方々にご指導頂きながら、チューリップの球根をプランターに手際よく植えました。

その後、児童は八乙女文化祭展示作品づくりとして、手作りクリスマスツリーに取り組みました。各自思い思いの飾り付けをして個性が出ていました。また、当日来られなかった児童は、後日改めて作品づくりをし無事に仕上がりました。



『カギかけ』防犯キャンペーン

南山見地区防犯組合長 亀田 秀一

南山見防犯組合では、今年度も『カギかけ』防犯キャンペーンとして、10月30日から11月30日までの期間に、各町内と交流センターで「カギかけ防犯キャンペーン」ののぼり旗を設置しました。また、11月12日の八乙女文化祭でキャンペーンブースの設置を行い、のぼり旗やポスターの掲示、防犯グッズの配布を実施しました。カギかけの大切さを再認識する機会となりました。

また、「特殊詐欺」が増加傾向にあります。皆さん、不審電話には注意しましょう。



歳末見舞い

南山見地区社会福祉協議会 前川 幸雄

昨年も12月2日に歳末見舞いと、75歳以上の一人暮らしの方と80歳以上の高齢者120名の方々に訪問しました。天候が心配されましたが、幸いにも小雨模様であり寒くもなく、お赤飯と粗品そして励ましの手紙を持って、理事・地域推進員が届けさせて頂きました。皆さんの元気な姿を拝見し安心しました。コロナ禍も取り地域の行事にいろいろと参加された方もおられました。

しかし、一人暮らしの方が年々増えていくような感じもしており、気がかりなところです。また、毎年見舞いに協力して下さる方がどれだけ集まるか悩みのたねであります。今回はたくさんの方に参加していただき本当に助かりました。

ご協力くださった理事・地域推進員の方にお礼申し上げます。いつまでも続いてほしい行事です。

二十歳をお迎えの皆さんおめでとうございます。

一月七日(日)、井波総合文化センターにおいて、「南砺市二十歳の集い」が行われました。今年度は、新型コロナウイルスの影響により通常開催となりました。

南山見地区からは、十一名の方が出席し、旧友との再会を喜び合い、大人への自覚と社会人としての心構えを新たにしていきました。

式典では、田中南砺市長のビデオによる式辞、才川市議会議員の祝辞の後、代表への記念品目録の贈呈、当地区代表の岩崎開登さんの謝辞がありました。式典に引き続き、実行委員メンバーが編集した、小中学校時代の「思い出のスライド」の上映で会場は盛り上がりつつありました。

また、小学校、中学校時代の恩師が当時の懐かしい話を取り上げあいさつされました。

記念撮影の後、地域づくり協議会から、ささやかではありますが記念品をお贈りしました。皆さんには、若さと希望に満ちあふれた情熱で未来に向かって歩まれることを願っております。

(事務局)

はたちの抱負



井上 幹太

先日、「二十歳の集い」に出席をしました。二十歳になるにあたって、これまで支えてくれた家族や地域の人にはとても感謝しています。

自分は現在、富山の大学で野球部に所属し、小学生から続けてきた野球を今も頑張っています。大学二年の春の大会では一部から二部への降格を経験し、悔しさを痛感しました。現在、二部でプレーをし、北陸大学野球の一部と二部の野球のレベルの差を感じています。「もう一度一部で強い相手と勝負がしたい」、そう思いながら日々練習やトレーニングに励んでいます。何としても今年の春の大会では、一部にもう一度昇格したいと思っています。

野球はチームスポーツであり、一人でもかけると組織として成り立たないので、そこをまとめるのが今の自分の立ち位置だと感じています。上級生としても、チームをまとめられるように今後取り組みたいと思っています。

野球を通してたくさんの方のことを学び、仲間や支えてくれている多くの人との繋がりの大切さを感じながら、感謝の気持ちをもって、これから少しずつ家族や地域へ恩返ししていきたいと思っています。



新年の集い中止

元日に発生した能登半島地震のため、1月4日に予定していた新年の集いは中止しました。南山見地区で被災された方も含め大きな被害が出た被災地の一日も早い復興をお祈りします。

(事務局)



行事予定

2月11日(日) 第35回 南山見地区「三世代交流の集い」

2月中旬 「八乙女講座」②



南山見人口

男	429名 (453名)
女	470名 (482名)
計	899名 (935名)
世帯数	265戸 (265戸)

令和5年12月31日現在
()は昨年度 住民基本台帳より
人口は、マシンの51名を含みます。

お知らせ

会報八乙女のバックナンバーに続き、令和5年で廃刊となった福祉のかけ橋のバックナンバーを地域づくり協議会ホームページに掲載しました。掲載場所は八乙女と同じ「資料室」です。発行年度毎に検索出来ます。時間の空いた時にちょっとのぞいてみてください。
(事務局)

編集後記

けたたましいスマホの緊急地震速報の音と激しい揺れで、正月気分ははじけ飛んでしまいました。能登で震度七強、富山で五強、過去にこの震度を記録したことはないのが富山県民は全員が初体験だったと思います。富山県の安全神話はおろかも壊れてしまいました。
さて、南砺市も震度五強の地震でした。避難訓練は毎年行ってきましたが、地震は想定外と思っていただけの方も多数いらっしゃると思います。さすがに津波は考慮することは無いと思いますが、土石流の可能性はあって当然だと思います。日頃から防災意識を高めておきましょう。ちなみに今回も避難所を開設し一大家族が避難されました。
(編集委員)